

2011年 8月27日・「読売新聞」では

「山田かん全詩集」出版

妻が編集委員 初期の作品含む 553編

長崎原爆の被爆体験を基に多くの作品を残した詩人山田かんさん（1930～2003年）の詩集「山田かん全詩集」（コールサック社）が出版された。1954～2002年に刊行した詩集7冊と未収録の作品から時系列に553編を収めている。

かんさんの妻和子さん（77）は09年末、コールサック社の鈴木比佐雄社長（57）から出版の打診を受けた。その頃、「初期の詩を読みたい」などの問い合わせが相次いで寄せられ、新たな詩集の刊行を考えており、旧知の作家らにも相談して承諾した。

和子さんは編集委員を務め、詩集以外で雑誌などに掲載された作品を探し、校正にも携わった。推敲の跡が残る手書きの「詩稿ノート」とも照らし合わせ、誤りがないか確認したという。

ガリ版刷りの第一詩集「いのちの火」について、かんさんは生前、「（若くして命を絶った）妹にささげるために出したから」と収録作を他の詩集に転載しなかったが、和子さんは今回、「初期の作品を調べたいと思う人に役立てば」と盛り込むことを決めた。

和子さんは「夫は『僕は普通の詩人』と言っていたけれど、自分の奥底からあふれ、書かずにはいられない思いを、自然と詩に表したのだと思う。今後の作品研究の参考になれば」と話している。

と紹介されています。